

住民意識を反映した環境政策の展開に関する研究

—沼田川流域圏・三原市の事例を中心として—

M072696 熊谷成則

1. 研究の背景と目的

現在、沿岸の都市部から流入する生活排水を原因とする水質汚濁が深刻な問題となっており、広島県内の2級河川の中で最大の流域面積を有する沼田川水系の生活排水による汚染が懸念されている。

本研究の目的は、沼田川の流域圏を中心に市町村合併をした三原市の事例を取り上げ、沼田川水系の水質汚濁を防止するため環境政策が一体的・統一的に実行されるか、また、そのために住民の果たすべき役割は何か、生活排水処理のインフラ整備はどうあるべきかを、三原市の都市部である沼田川下流と山間部である上流に分けて検討することである。

第一の柱であるインフラ整備に関しては、沼田川流域における公共下水道の整備について、費用対効果の分析手法を用いて個別処理の優位性を明らかにした文後（2007）の先行研究を参考にした。

第二の柱としては、環境共生や地域共生の理念が、三原市環境基本計画に反映されているか検討し、環境保全に関する住民意識や住民団体の役割が、計画の具現化にどのように有効であるかを検証した。

第三の柱は、戸田（2007）が提示している3つの視点、①各地域において環境共生と地域共生を同時に指向するという視点、②参加・連携と人材育成の視点、③広域的な組織・制度の設計の視点、を参考に沼田川流域圏で合併した三原市の環境政策を展望した。

2. 沼田川流域圏の環境の現状と課題

沼田川水系は、沼田川及び支川の全域が水質環境基準の類型指定を受けており、水質環境基準点7カ所を含む全19カ所で実施した10カ年（1991～2000）の水質観測結果では、下流部三原市内の仏通寺川が、毎年のように基準を上回っている。

人口の約9割が、沼田川下流の三原地域、本郷地域に暮らしている。三原市の下水道処理人口普及率は、2006年度で26.0%である。これは広島県全体65.2%と比較して整備水準が極めて低い。また、生活排水処理率は2006年度で45.5%である。これも広島県全体71.3%（2005年度）と比較して低い水準となっている。

インフラ整備については、既に沼田川下流の管渠が整備されている地域（三原地域、本郷地域）では集合処理（公共下水道整備）を推進させ、また、沼田川上流（久井地域、大和地域）では個別処理（合併浄化槽等）を充実させる必要がある。

3. 三原市の環境に関する住民意識

2006年度に三原市が市民に対して実施した「みはら

し環境アンケート」のデータ分析を中心に行った。

三原市の了解のもとで、市民、中学生、小学生を対象とした環境に関するアンケート調査の素データを、上流・下流別に再集計し分析した。

アンケート項目である、①環境に関する関心度、②環境に関する満足度、③居住地周辺の環境の問題点、④環境保全に対する取組、⑤望ましい環境像、⑥環境に対する市民・市民団体・事業者および三原市のあり方、の中で河川・水質・下水道に関する項目を選択し、上流と下流の住民意識の差異について考察した。

分析結果により、下流では沼田川の水質汚濁は市民自身の生活排水が原因であるという認識があり、改善しなければならない意識が高いことが明らかになった。また、行政に対して調査・監視・指導の取組を望んでおり、下水道処理の整備推進を望んでいることが明らかになった。

4. 協働による計画の推進

行政に期待される役割としては、①沼田川流域圏の環境のあり方を示す将来ビジョンの策定、②沼田川流域圏の水質や景観保全を目的とした調査・監視体制の整備、③事業所や市民に対する啓発活動、④環境分野におけるNPOの設立促進と財政支援、⑤地域特性を活かした計画的な下水道処理施設の建設、が考えられる。

厳しい財政状況のもとで公共事業が抑制され、下水道普及率の飛躍的な向上が期待できない中では、ハード整備に力を入れるよりも、地域住民が環境に対する意識向上を図り、行政と一体となって改善策に取組むべきである。地域住民が、昔と比べて便利になった生活スタイルを変え、生活排水を一切出さないようにするのは難しい。上流と下流の住民が一体となり、沼田川を生活排水で汚さないという統一した意識を持ち、自分たちが出す生活排水をいかに処理して、沼田川に汚水を流さないようにするかがポイントとなる。

協働で計画を推進していくための、最大の課題は人材である。環境に対して意識が高く、事業を実働させる人材の掘り起こしが急務である。そして、合併前の市や町など地域の特性をいかに活かしていくかが課題となる。過疎や高齢化が進む各地域のコミュニティの抱える問題は多様であり、単一的な方法では、実現に結びつかない。各地域の住民意識に配慮しながらプロジェクトに取組むことを通じて、住民と行政の一体感が生まれれば、様々な協働の可能性が出てくるのが期待できる。